



「ビーチ・マリンスポーツの聖地」をPRする凧に糸を結び付ける参加者。14日午前、浜松市南区の浜松まつり会館

浜松市は14日、浜松まつり(3～5日)で揚げる市の凧(たこ)の糸目付けを同市南区の浜松まつり会館で行った。ことしの凧は、市が新たにブランド確立に力を注ぐ「ビーチ・マリンスポーツの聖地」を象徴するデザインをあしらった。約2・9段四方の6帖(じょう)凧と約2・4段四方の4帖凧を用意した。市マスケットキャラ



浜松市の凧「海」PR

職員ら糸目付け 準備着々

クター「出世大名康くんと」や「出世法師直虎ちゃん」が、浜名湖や遠州灘でウインドサーフィンを楽しむ様子を表現した。

参加した市職員有志や浜松まつり組織委員会企画統制監理部、静岡文化芸術大の学生ら約60人は、凧の裏側から穴を開け、麻糸を丁寧結び付けた。

市は毎年、その年のPRする事業をモチーフにした凧をまつりの初日に揚げている。担当者は「空高く揚げ、国内外から訪れる観光客にPRしたい」と意気込んだ。